



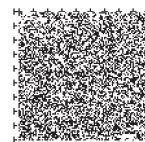
和歌山県
スポーツ
推進計画

豊かなスポーツライフの
質の向上に向けて

—和歌山県生涯スポーツ社会づくりプランⅡ—

平成30年4月策定
(令和5年6月改訂)

和歌山県教育委員会



Uni-Voice 専用読み取り装置やスマホアプリを利用して、情報を音声で聞くことができます。

和歌山県スポーツ推進計画

豊かなスポーツライフの質の向上に向けて
—和歌山県生涯スポーツ社会づくりプランⅡ—



目次

第1章 推進計画の策定に当たって

- 1 計画策定の背景…………… 1
- 2 計画の性格及び期間…………… 3

第2章 推進計画の基本方針

- 1 考え方…………… 4
- 2 めざす社会…………… 5
- 3 基本方針…………… 5

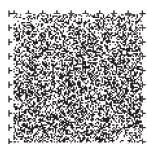
第3章 スポーツ推進の具体的な方策

1 学校と地域における子供のスポーツ環境の充実

- (1)政策目標…………… 7
- (2)指標…………… 7
- (3)現状と課題…………… 7
- (4)具体的な方策…………… 9
 - ア 幼児期における運動遊びに関する指導の充実…………… 9
 - イ 学校における体育活動に関する指導の充実…………… 9
 - ウ 子供を取り巻く社会のスポーツ環境の充実…………… 9

2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

- (1)政策目標…………… 10
- (2)指標…………… 10
- (3)現状と課題…………… 10
- (4)具体的な方策…………… 13
 - ア スポーツに親しむことができる環境整備の推進…………… 13
 - イ 総合型地域スポーツクラブの育成・支援…………… 15
 - ウ スポーツ指導者の育成・支援…………… 15



3 世界の舞台で活躍できる競技者の発掘・育成・強化

(1)政策目標	16
(2)指標	16
(3)現状と課題	16
(4)具体的な方策	18
☑ ジュニア期からの一貫した強化体制の確立	18
☑ スポーツ指導者の発掘・養成と活用	19
☑ 高度なスポーツ医・科学分野の支援	19
☑ アンチ・ドーピング活動の推進	20
☑ スポーツ界のガバナンスの強化	20

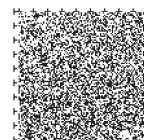
4 全国大会・国際大会の開催及び国際競技大会等に係るキャンプの誘致による県民のスポーツに対する意識や関心の向上と県内各地域の活性化

(1)政策目標	22
(2)指標	22
(3)現状と課題	22
(4)具体的な方策	25
☑ トップレベルの競技スポーツを身近で観戦したり応援したりする機会の充実	25
☑ 国際競技大会等のキャンプ候補地としての効果的なアピールと更なる優位性の向上	26

第4章 連携・協働による施策の総合的な推進 27

【参考資料】 29

用語集	29
策定までの経緯	33
諮問文	34
諮問理由と検討すべき事項	35
答申文	36
和歌山県スポーツ推進審議会委員名簿	37



1 計画策定の背景

(1) スポーツの意義

スポーツは、人々に大きな感動や勇気、生きがいなどをもたらす世界共通の人類の文化であり、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利です。

また、スポーツは、言語や生活習慣の違い、人と人、地域と地域の交流を盛んにするとともに、地域コミュニティの形成にも大きく貢献します。

スポーツは、現代社会において人々が、心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものであり、スポーツに対する期待は、これまで以上に大きくなっています。

(2) 国の状況

国においては、2011(平成23)年8月に「スポーツ振興法」(昭和36年法律第141号)を全面的に改正し、今まで以上にスポーツの価値や意義、役割の重要性を盛り込んだ「スポーツ基本法」(平成23年法律第78号)が施行されました。

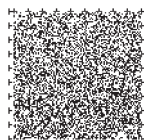
そして、翌年3月には、その理念を具体化した「スポーツ基本計画」が策定されました。

さらに、2013(平成25)年9月に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定され、2015(平成27)年10月には、スポーツ基本法附則第2条に規定された検討の結果に基づく措置として、国のスポーツに関する施策を総合的に推進するためのスポーツ庁が設置されました。

また、2017(平成29)年3月には「第2期スポーツ基本計画」、2022(令和4)年3月には「第3期スポーツ基本計画」が策定されました。



紀の国わかやま国体開会式



(3) 本県の状況

2007(平成19)年12月に今後10年間を見通した「和歌山県スポーツ振興基本計画」を策定し、元気で明るく豊かで活力のある和歌山の実現に向けて様々なスポーツ振興施策を展開してきました。

特に、2015(平成27)年に開催した「紀の国わかやま国体」では男女総合優勝、「紀の国わかやま大会」では過去最高となる127個のメダルを獲得するなど、素晴らしい競技成績を収めるとともに、県民の多大な支援・協力を得て、両大会を成功裏に終えることができました。

両大会で得られたレガシーを活かし、本県の生涯スポーツの推進や競技水準の維持向上に向けた積極的な取組が求められています。

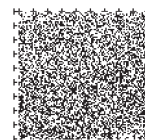
2018(平成30)年4月に概ね10年間のスポーツ推進計画として、全ての県民がそれぞれのライフステージにおいてスポーツとふれあい、生涯にわたり生活の質の向上が図れる社会の実現を目指す「和歌山県スポーツ推進計画」(本計画)を策定しました。



紀の国わかやま大会開会式



紀の国わかやま国体閉会式



2 計画の性格及び期間

- (1) 「和歌山県スポーツ推進計画」は、スポーツ基本法第10条に明記されている「都道府県及び市町村の教育委員会は、スポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものとする」の定めに基づく計画であり、法の基本理念に則った計画とします。

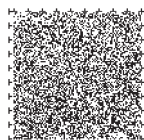
また、和歌山県長期総合計画及び和歌山県教育振興基本計画を踏まえた計画とします。

- (2) 和歌山県スポーツ振興基本計画を基に2007(平成19)年度から今日まで取り組んできた本県スポーツ振興の成果と課題を踏まえた計画とします。

- (3) 紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の開催後に策定するスポーツ推進計画であることから、開催によって培われた人材・組織・施設等を最大限に有効活用し、県民のスポーツへの興味・関心を更に高め、スポーツの日常化につなぐことに力点を置いた計画とします。

- (4) 和歌山県スポーツ推進計画は、2018(平成30)年度から概ね10年間のスポーツ推進に関する施策の基本的方向と具体的な方策を明らかにした計画とします。

スポーツ基本計画が2021(令和3)年度、和歌山県教育振興基本計画が2023(令和5)年度に見直しされたことを踏まえ、これらの計画の策定状況及び2022(令和4)年度まで取り組んできた本県スポーツ振興の成果や課題、社会情勢の変化などを検証した上での、2027(令和9)年度までの計画改訂とします。



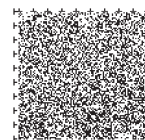
1 考え方

今後10年間の和歌山県のスポーツを推進するに当たり、スポーツ基本法の理念並びに和歌山県長期総合計画及び和歌山県教育振興基本計画を踏まえ、スポーツを通じてめざす社会とそれを実現するための基本方針を示します。

<参考>

スポーツ基本法の基本理念

- ①スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利であることに鑑み、国民が生涯にわたりあらゆる機会と場所において、自主的・自律的に適性や健康状態に応じてスポーツを行うことができるようにする
- ②青少年のスポーツが国民の生涯にわたる健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む基礎となるものであるとの認識の下に、学校、スポーツ団体、家庭及び地域における活動を相互に連携
- ③地域において、主体的に協働することによりスポーツを身近に親しむことができるようにするとともに、スポーツを通じて、地域の全ての世代の人々の交流を促進し、交流の基盤を形成
- ④スポーツを行う者の心身の健康の保持増進、安全の確保
- ⑤障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進
- ⑥我が国のスポーツ選手(プロスポーツの選手を含む。)が国際競技大会等において優秀な成績を収めることができるよう、スポーツに関する競技水準の向上に資する諸施策相互の有機的な連携を図りつつ、効果的に推進
- ⑦スポーツに係る国際的な交流及び貢献を推進することにより、国際相互理解の増進及び国際平和に寄与
- ⑧スポーツを行う者に対する不当な差別的取扱いの禁止、スポーツに関するあらゆる活動を公正かつ適切に実施することを旨として、スポーツに対する国民の幅広い理解及び支援が得られるよう推進



第2期和歌山県長期総合計画 2017(平成29)年度～2026(令和8)年度

- 和歌山県がめざす将来像
「世界とつながる 愛着ある元気な和歌山」
～県民みんなが楽しく暮らすために～
 - I「未来を拓くひとを育む和歌山」
 - IV「暮らしやすさを高める和歌山」

第4期和歌山県教育振興基本計画 2023(令和5)年度～2027(令和9)年度

- 基本的方向
 - 1 成長の基盤となる資質・能力の獲得
 - 3 学校教育の実効性を高める環境の整備
 - 4 一人一人の生活の質を高める多様な機会の充実
 - 5 多様な価値観をもった人々が協働する公平公正な社会の実現

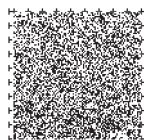
2 めざす社会

全ての県民一人一人が、それぞれのライフステージにおいて、関心・適性等に応じ、自主的・自発的にスポーツとふれあい、日常的にスポーツに親しむ、楽しむ、支えるなどの活動を通じて、生涯にわたり生活の質の向上が図れる社会の実現をめざします。

3 基本方針

紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会で培われた財産を有効に活用しつつ、めざす社会に向けて取り組むための基本方針を以下の4項目とします。

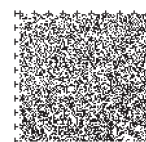
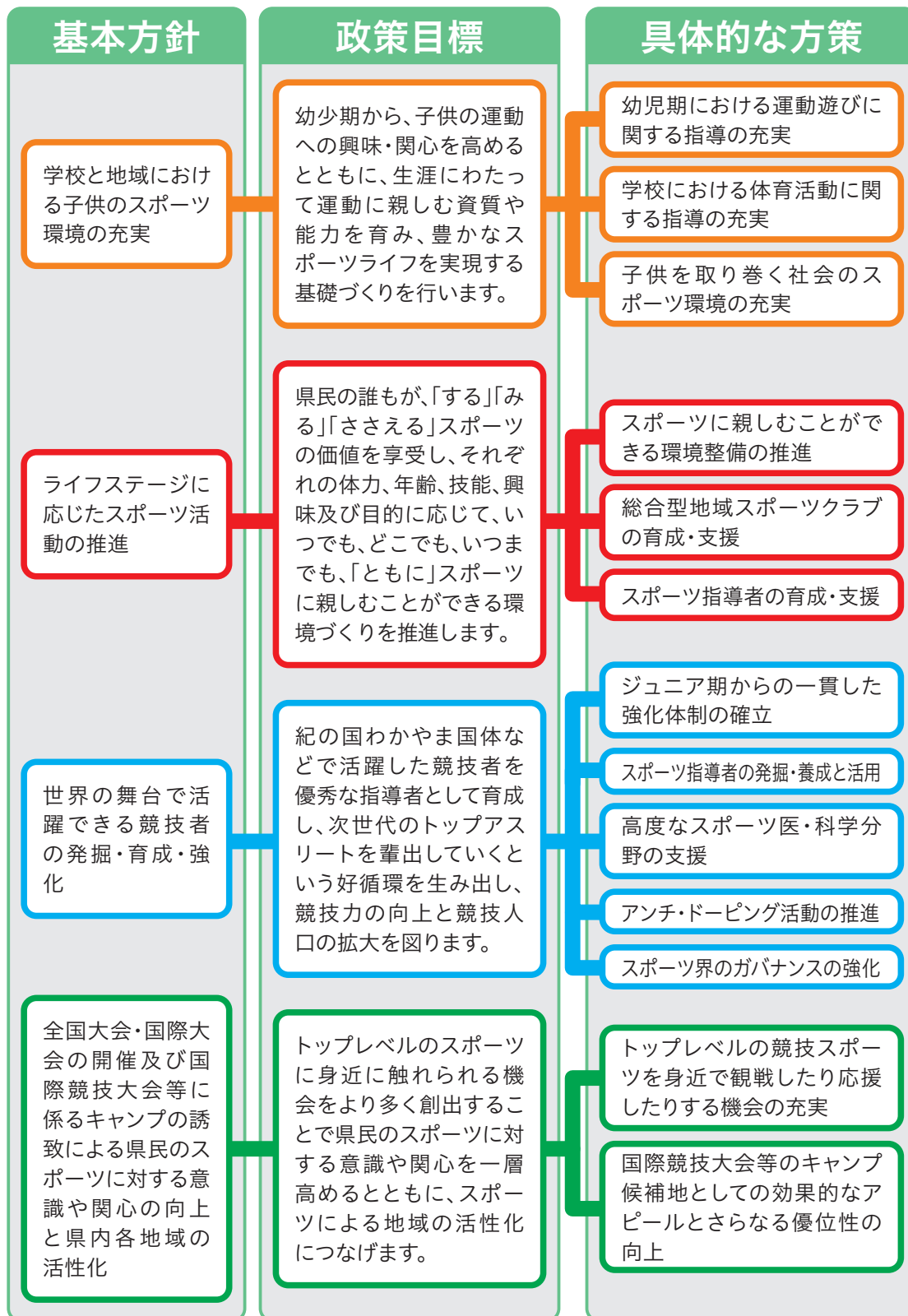
- (1) 学校と地域における子供のスポーツ環境の充実
- (2) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- (3) 世界の舞台で活躍できる競技者の発掘・育成・強化
- (4) 全国大会・国際大会の開催及び国際競技大会等に係るキャンプの誘致による県民のスポーツに対する意識や関心の向上と県内各地域の活性化



和歌山県スポーツ推進計画

めざす社会

全ての県民一人一人が、それぞれのライフステージにおいて、関心・適性等に応じ、自主的・自発的にスポーツとふれあい、日常的にスポーツに親しむ、楽しむ、支えるなどの活動を通じて、生涯にわたり生活の質の向上が図れる社会の実現をめざします。



推進計画の基本方針に沿った政策目標と指標を設定し、具体的な方策を推進します。

1 学校と地域における子供のスポーツ環境の充実

(1) 政策目標

幼少期から、子供の運動への興味・関心を高めるとともに、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育み、豊かなスポーツライフを実現する基礎づくりを行います。

(2) 指 標

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における順位

[小学校5年生男子・女子]

【2017(平成29)年】12位・12位 【2022(令和4)年】18位・22位

→ 【2027(令和9)年】10位以内

[中学校2年生男子・女子]

【2017(平成29)年】33位・29位 【2022(令和4)年】27位・28位

→ 【2027(令和9)年】10位以内

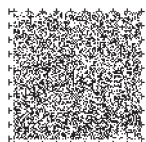
(3) 現状と課題（令和4年度）

- 2008(平成20)年から全ての学校、全ての学年で実施している「児童生徒の体力・運動能力調査」の結果に基づき、全ての学校で「体力アッププラン」を作成し、体育授業の工夫・改善等に取り組んだ結果、小学校5年生男女は、2012(平成24)年から10年連続で、全国平均を上回っています。

また、中学校2年生男女は、2018(平成30)年から4年連続で、全国平均を上回りましたが、近年、小・中学校男女とも下降傾向にあります。

その主な要因として、朝食欠食、睡眠不足、学習時間以外のスクリーンタイム増加などの生活習慣の変化等が推察されます。

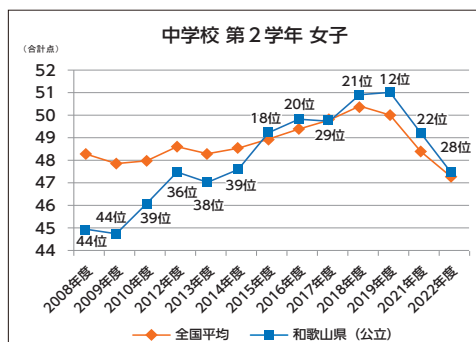
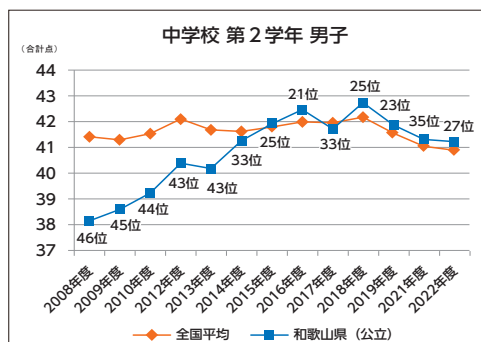
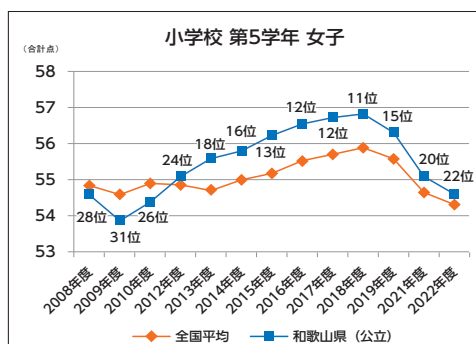
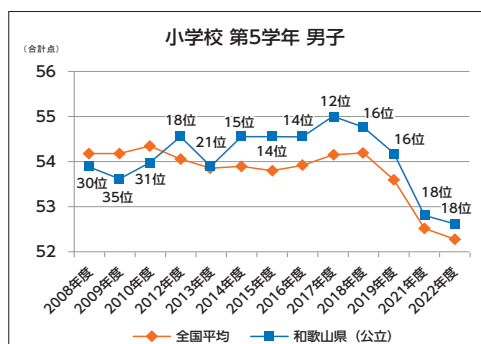
- 中学生と比べ高校生では、運動の頻度や1日の運動時間が減少する傾向が見られます。特に、高校1年生女子の約3割が、日頃運動をしないと回答しており、学年が上がるほどその割合が増えている現状にあり、高校生女子の運動離れを食い止める必要があります。



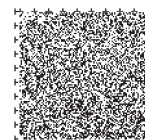
- 幼児期から体を動かすことの楽しさを体験できるようにするため、教職員への運動遊び指導の普及、オリンピック等のトップアスリートを活用したスポーツへの興味・関心を喚起するための取組、更に、県オリジナルのダンス指導DVDを制作し、普及させるなど指導内容が充実したことにより、体力向上に成果が見られます。
- 体育授業の充実に向けて、小学校では全教員の指導力の向上を図るための研修機会の確保、中学校では、全保健体育科教員が全ての領域で安全かつ専門的指導ができるよう研修内容の充実に取り組んでいます。
- 運動部活動では、少子化による生徒数の減少やそれに伴う教員数の減少により、学校単独でのチーム編成が困難なため、合同チームとして大会に参加する運動部が増加、また専門性を有する指導者の不足が生じ、生徒のニーズに応じた部を設置し、多様な部活動を維持していくことが困難な状況が見られ、生徒の活動機会の確保が喫緊の課題となっています。

このような中、各学校においては、「和歌山県運動部活動指針」等に基づき、適切に運動部活動が運営されなければなりません。また、「学校の運動部活動に係る活動方針」を策定、活動計画等を作成し公表することで、学校と生徒・保護者が共通理解のもと、取り組むことが大切です。

■全国体力等調査における本県の体力合計点及び全国順位推移



資料: 文部科学省「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」



(4) 具体的な方策

ア 幼児期における運動遊びに関する指導の充実

- (ア) 幼児期から体を動かす遊びに取り組む機会を保障するため、文部科学省の「幼児期運動指針」の普及・啓発を行います。
- (イ) 幼児期に適切な運動を体験し、正しい生活習慣を身に付けることが将来の豊かなスポーツライフ実現への基礎となることを保護者に理解を得る取組を推進します。
- (ウ) 障害のある子供の障害の種類や程度に応じた運動の機会を確保します。

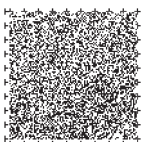
イ 学校における体育活動に関する指導の充実

- (ア) 学校における体育に関する教員の指導力向上を目的として、研修機会の確保と研修内容の充実を図ります。
- (イ) 運動を苦手とする子供の運動意欲を喚起するため、専門性を有する外部指導者を積極的に活用します。
- (ウ) 障害のある子供が、体育授業や運動部活動に障害の種類や程度に応じて参加できるように工夫します。
- (エ) 「運動部活動指導の手引」等を活用し、それぞれの学校の特徴を生かした適切で効果的な活動が行われることにより、運動部活動で生徒一人一人の心身の成長を図ります。
- (オ) 学校の実情に応じて外部人材やICT等を活用するなど、持続可能な運動部活動を促進するとともに、中学校運動部活動の地域移行に向けた環境整備を推進します。

ウ 子供を取り巻く社会のスポーツ環境の充実

- (ア) 運動習慣が身に付いていない子供やスポーツが苦手な子供を運動好きにするためのきっかけを創出するとともに、豊かな人間性・社会性を育むため、スポーツ・レクリエーション活動等の活用を促進します。
- (イ) 学校、スポーツ少年団、競技団体、総合型地域スポーツクラブ(以下「総合型クラブ」という。)等が連携・協力し、経済的な事由等でスポーツをすることが困難な子供や障害のある子供にも十分配慮しつつ、全ての子供が多様なスポーツ活動が行えるような取組を支援するとともに、地域において活躍するスポーツ指導者の学校における体育に関する指導への積極的な活用を促進します。
- (ウ) 生徒がスポーツに親しむことができる機会を確保するため、学校と地域のスポーツクラブ等との連携による指導者派遣や子供の多様なニーズに応えることのできる地域クラブ活動を整備する必要があります。

地域クラブ活動への移行を推進するため、運動部活動の地域移行に係るスケジュールや目標設定、具体的な取組内容等を示すとともに、子供の活動の場を確保するため、学校と地域との連携・協働による、充実した地域クラブ活動が行える環境の整備を支援します。



2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

(1) 政策目標

県民の誰もが、「する」「みる」「ささえる」スポーツの価値を享受し、それぞれの体力、年齢、技能、興味及び目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも、「ともに」スポーツに親しむことができる環境づくりを推進します。

(2) 指 標

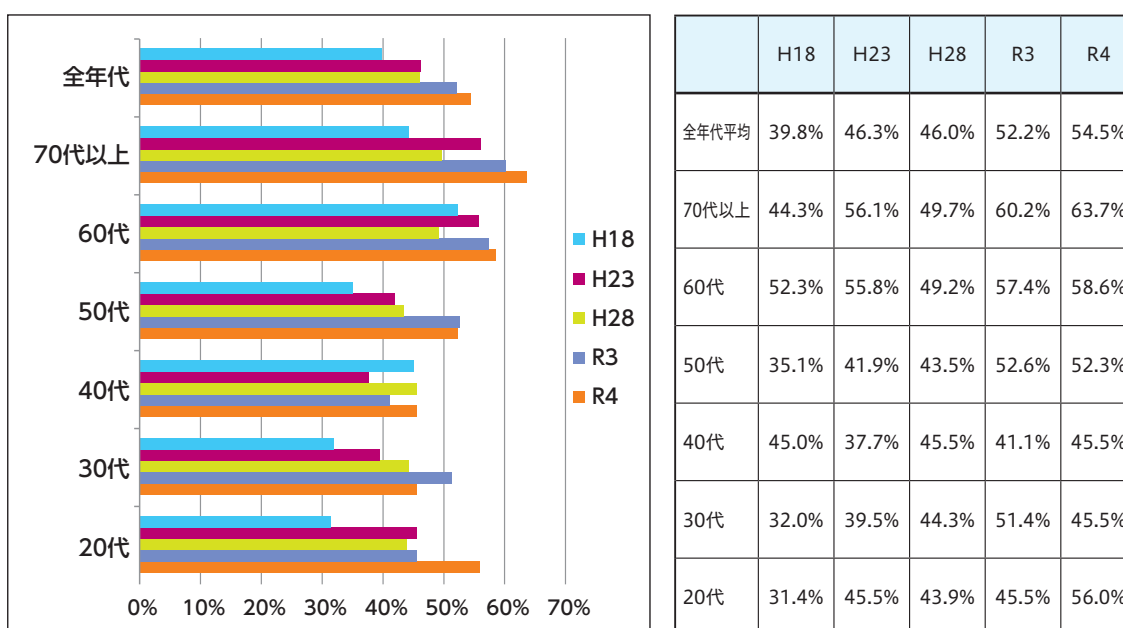
成人の週1回以上のスポーツ実施率

【2016(平成28)年】46.0% 【2022(令和4)年】54.5% → 【2027(令和9)年】70.0%

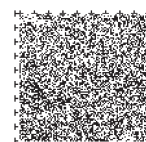
(3) 現状と課題（令和4年度）

- 本県の成人の週1回以上のスポーツ実施率は、2016(平成28)年度が46.0%、2021(令和3)年度が52.2%、2022(令和4)年度が54.5%となっており、2016(平成28)年度と比較すると大きく伸びています。年代別では、20歳代と50歳以上の実施率が高く、反対に30歳代から40歳代が低くなっており、このような結果から子育て世代や働く世代が日常の中で気軽にスポーツに取り組むことができる機会づくりや啓発が重要です。

■本県の成人の週1回以上のスポーツ実施率



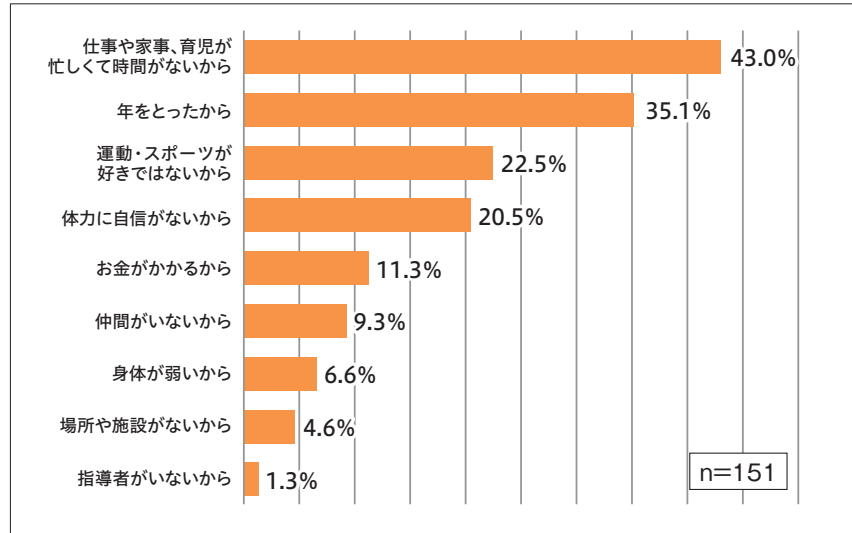
資料：令和4年和歌山県民のスポーツ生活に関するアンケート調査報告書 ※有効回答標本数944



第3章 スポーツ推進の具体的な方策

- スポーツ活動を行っていない理由は、「時間がないから」が一番多く、「年をとったから」や「運動・スポーツが好きでないから」、更に、「体力に自信がないから」などが理由となっています。

■運動・スポーツを実施しない人の阻害要因

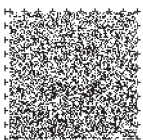


資料: 令和4年和歌山県民のスポーツ生活に関するアンケート調査報告書 ※有効回答標本数944

- 総合型クラブは、2022(令和4)年12月現在、25市町で62クラブが、それぞれ特色ある活動を展開し、幼児から高齢者までのスポーツ活動等の場を提供しています。誰もが生涯にわたって、スポーツに親しむことができるように、この仕組みを持続的なものとしていくための環境整備が必要です。
- スポーツ推進委員は、高齢化が進み、近年の委員数はほぼ横ばいとなっています。

■本県スポーツ推進委員の状況

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
男	362	356	356	345	346	350
女	138	140	143	143	141	142
計(人)	500	496	499	488	487	492
平均年齢(歳)	54.45	54.04	54.12	54.65	55.27	55.30



- 公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格を有する人数は、2017(平成29)年は、1,617名、2022(令和4)年が2,051名と434名増加しており、人口1,000人あたりの有資格者数の割合は、全国平均並みとなっています。

■本県の日本スポーツ協会公認スポーツ指導者登録状況

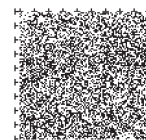
指導者資格		H29	H30	R1	R2	R3	R4
競技別指導者資格	コーチングアシスタント	-	-	-	5	132	247
	スタートコーチ	-	-	-	3	8	90
	コーチ1(旧指導員)	1,055	1,060	1,102	1,128	1,104	1,103
	コーチ2(旧上級指導員)	82	73	72	77	71	57
	コーチ3(旧コーチ)	176	183	210	218	220	233
	コーチ4(旧上級コーチ)	42	50	51	53	50	53
	教師	22	20	21	22	23	20
	上級教師	8	7	8	8	8	8
フィットネス資格	スポーツプログラマー	22	22	22	21	21	19
	フィットネストレーナー	3	2	2	2	2	2
	ジュニアスポーツ指導員	39	34	34	34	32	30
メディカル・コンディショニング資格	アスレティックトレーナー	23	24	25	28	26	30
	スポーツドクター	65	65	67	67	68	65
	スポーツデンティスト	5	6	6	7	6	8
マネジメント資格	スポーツ栄養士	1	2	2	2	2	2
	アシスタントマネジャー	68	69	69	72	77	76
旧資格	クラブマネジャー	6	5	6	6	7	7
合計(人)		1,617	1,622	1,697	1,753	1,858	2,051

人口1,000人あたりの有資格者数(人口比)	和歌山県	1.711	1.735	1.835	1.899	2.033	2.271
	全国平均	1.721	1.764	1.820	1.898	1.984	2.247

- 公認資格の取得促進や研修機会の充実等により、スポーツ指導者の資質向上を図る必要があります。
- 障害のある人が身近な地域で気軽に活動できるための場づくりや障害の種類や程度に配慮した指導・支援ができる指導者の育成など、環境の整備が求められています。



2015 紀の国わかやま大会



(4) 具体的な方策

ア スポーツに親しむことができる環境整備の推進

(ア) 総合型クラブをはじめ様々な団体等が開催する、親子や家族がともに参加できるスポーツ教室やスポーツイベント等を通じて、地域、年齢、性別、障害の有無に関わらず、子育てや働く世代、普段あまりスポーツに親しんでいない人に対するスポーツへの参画促進に取り組みます。



わかやまサイクリングフェスタ

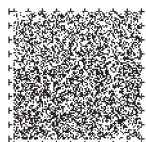


わかやまりレーマラソン～パンダRUN～

(イ) スポーツを継続的に行うことによる健康増進、健康寿命の延伸、医療費の抑制が注目されています。市町村等と連携し、ラジオ体操をはじめ、シニアエクササイズや「みんなで実践！健康づくり運動ポイント事業」など、高齢者が無理なく日常的に取り組むことのできる運動やスポーツの機会を提供します。



出張！県政おはなし講座：ラジオ体操

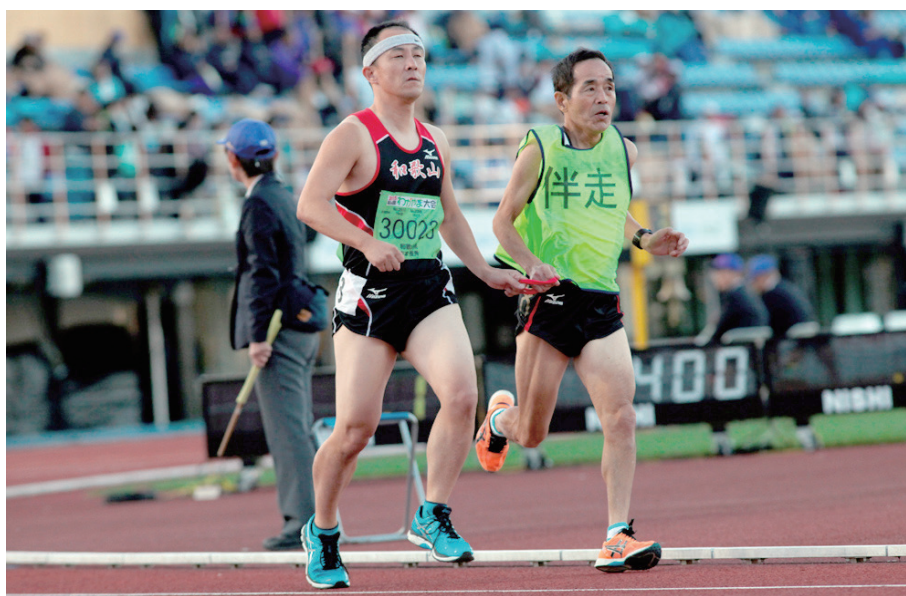


- (ウ) ワールドマスターズゲームズ2027関西の開催を契機として、マスターズスポーツに対する気運を醸成します。



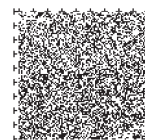
ワールドマスターズゲームズ2017オークランド大会

- (エ) 障害のある人が、日常生活の中で、また身近な地域において運動やスポーツ活動に参加しやすい場づくりや障害の種類や程度に配慮した指導・支援ができる公益財団法人日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導者等を発掘・養成し、スポーツを通じた社会参画を促進します。



2015紀の国わかやま大会

- (オ) 既存のスポーツ施設以外にも身近なところでスポーツができる場所として、学校体育施設やオープンスペース等の有効活用を図るとともに、誰もがスポーツを行いやすくするユニバーサルデザイン化の促進等により、安全で継続可能な地域スポーツ環境の充実を推進します。また、様々なスポーツに関する知見や機会を広く県民に提供し、スポーツを「する」「みる」「ささえる」実効性を高めます。



イ 総合型クラブの育成・支援

(ア) 「きのくに広域スポーツセンター」や市町村等と連携し、スポーツ関係団体をはじめとする地域団体・住民等に対して、多世代、多種目、多志向の様々な人との交流が生まれる活動を中心とした総合型クラブの啓発を効果的にを行います。

(イ) 総合型クラブが、幼稚園等、放課後子ども教室及び放課後児童クラブや学校部活動等と連携し、スポーツ教室や外遊びなどの機会を増やすとともに、地域で部活動に代わり得る活動の取組を支援します。



総合型クラブでの活動状況

(ウ) 総合型クラブを育成・支援するために、ブロック別事業やスポーツ交流大会等の開催によるクラブ間交流を促進させるとともに、競技団体との連携による多様な指導者の確保を支援します。

また、登録・認証制度の運用を通じて、総合型クラブの質的充実を図るなど、持続可能な運営体制づくりや市町村・総合型クラブ等が主催するスポーツ教室等の開催を支援することで、県民のスポーツ参加を推進します。

(エ) 障害のある人が多様なスポーツを楽しめるクラブ運営に取り組む総合型クラブを支援することにより、障害の有無に関わらず誰もがスポーツに参画できる環境を充実させます。

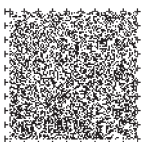
ウ スポーツ指導者の育成・支援

(ア) スポーツのもつ楽しさや魅力等を教え、伝えることのできる指導者を育成するため、市町村や関係機関等と連携し、スポーツ指導の公認資格の取得を促進するとともに、スポーツ医・科学研究の成果を積極的に活用した研修会を実施します。

(イ) スポーツ推進委員が、「スポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整等」を果たせるよう、研修会等を一層充実させます。



和歌山県新任スポーツ推進委員研修会



3 世界の舞台で活躍できる競技者の発掘・育成・強化

(1) 政策目標

本県トップアスリートが、オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会等の国際舞台で活躍することにより、子供がスポーツに対する夢や憧れを抱き、スポーツに取り組むきっかけとなり、次世代のトップアスリート育成につながります。

紀の国わかやま国体などで活躍した競技者を優秀な指導者として育成し、次世代のトップアスリートを輩出していくという好循環を生み出し、競技力の向上と競技人口の拡大を図ります。

(2) 指 標

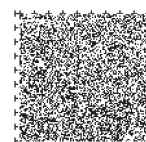
オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会における本県関係者の出場者数
【2016(平成28)年】9名 【2021(令和3)年】13名 → 【2024(令和6)年】15名以上
国民体育大会での男女総合順位

【2017(平成29)年】26位 【2022(令和4)年】39位 → 【2027(令和9)年】20位台
全国高等学校総合体育大会での入賞種目数

【2017(平成29)年】39種目 【2022(令和4)年】37種目 → 【2027(令和9)年】50種目

(3) 現状と課題（令和4年度）

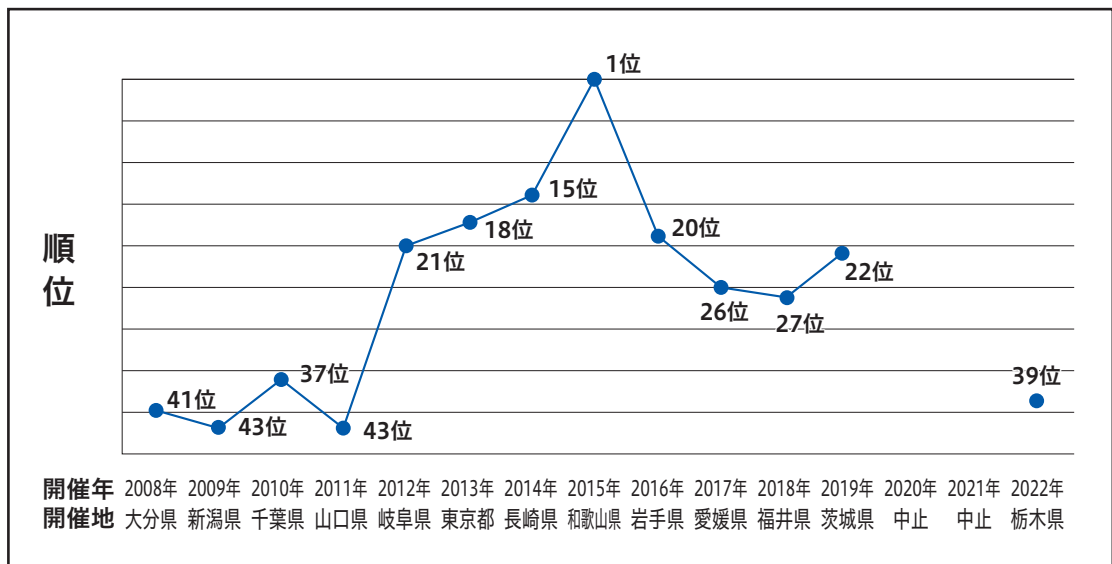
- 2015(平成27)年の紀の国わかやま国体で男女総合優勝し競技力が大幅に向上しました。
- オリンピック競技大会をはじめとする国際大会で活躍するトップアスリートを輩出しており、今後もこれまでに強化してきた競技力の維持・向上が求められます。
- 世界で活躍できるトップアスリートを輩出するために、ジュニア期から有能な人材を発掘・育成・強化しています。
今後、より一層、一貫した指導体制を構築する必要があります。
- トップアスリートを育成するためには、各競技団体の指導者を対象とした研修等を実施し、指導者の資質向上を図っていく必要があります。



第3章 スポーツ推進の具体的な方策

- 実績のある退職教職員などレベルの高い指導者やトップアスリートとして活躍した経験を持つ指導者を強化拠点校などに配置していますが、指導者数が十分ではないため、優秀な指導者の養成をより一層図っていく必要があります。
- 紀の国わかやま国体を契機にスポーツ医・科学サポートの重要性が広く認識されましたが、県内のアスリートに、より充実したスポーツ医・科学サポートを提供できるような体制を整える必要があります。
- 女性アスリートに対する効果的な支援の在り方については、いまだ研究・開発の途上にあり、支援の充実が求められています。
- 指導者やアスリートには、アンチ・ドーピングに関する知識が今まで以上に必要となっており、アンチ・ドーピング啓発活動のより一層の充実が求められています。
- スポーツは、次代を担う青少年の人格の形成に大きな影響を及ぼすものであり、スポーツインテグリティの確保が重要であるため、スポーツ活動や研修会等を通じて、スポーツの土台であるフェアプレーの精神や、公平・公正なスポーツ環境を整備することがスポーツ界全体に求められています。

■本県の国民体育大会における男女総合成績の推移

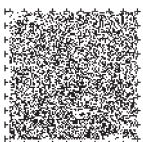


第1章 推進計画の策定に当たって

第2章 推進計画の基本方針

第3章 スポーツ推進の具体的な方策

第4章 連携・協働による施策の総合的な推進



(4) 具体的な方策

ア ジュニア期からの一貫した強化体制の確立

- (ア) ジュニア強化を重点化し、各競技団体に対して一貫指導体制の構築の徹底を図ります。
- (イ) 「ゴールデンキッズ発掘プロジェクト」等のタレント発掘事業を推進し、各競技団体とより一層連携した競技体験プログラムを実施するなど、将来トップアスリートとして活躍が期待できる子供の発掘・育成・強化を図ります。

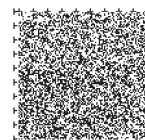


身体能力プログラムの実施状況

- (ウ) 全国から高い競技力を有する中学校の選手やチームを招き、県内の強豪チームと練習会を開催するなど、ジュニア期から高い競技レベルに触れる機会を設けます。
- (エ) 紀の国わかやま国体開催後も引き続き、競技団体、企業及び市町村の行政関係機関との連携を図り、選手強化の施策を実施します。



那智勝浦町での合宿 レスリング競技



イ スポーツ指導者の発掘・養成と活用

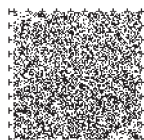
- (ア) 中央競技団体等の優秀な指導者・コーチ等を招聘し、高度な技術や戦術・戦略の習得に努め、県内指導者の資質向上とともに競技者の競技力向上を図ります。
- (イ) 「チーム和歌山コーチ塾」などのスポーツセミナーやスポーツ指導者研修会を開催し、指導者の資質向上を図るとともに、独立行政法人日本スポーツ振興センター(JSC)、公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)及び日本パラリンピック委員会(JPC)が開催する指導者研修会等へ派遣します。
- (ウ) 指導者としての専門能力を高めるため、公益財団法人日本スポーツ協会等の公認指導者資格の取得を促進します。
- (エ) 体育指導員や優れた指導力を有する退職した教職員等を強化拠点校等へ積極的に派遣します。
- (オ) 次世代の強化を担う指導者を強化練習会及び県外遠征や全国大会等に帯同させ、指導技能を学ばせることにより、優れた指導者を養成するシステムを構築します。

ウ 高度なスポーツ医・科学分野の支援

- (ア) 公益社団法人和歌山県体育協会スポーツ医・科学委員会が中心となり、スポーツ医・科学分野のサポートの充実を図ります。



メディカルチェックの様子



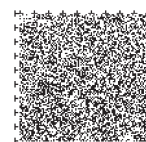
- (イ) 選手や指導者が高度なスポーツ医・科学サポートを受けられるよう、和歌山県スポーツドクター連絡協議会や和歌山県アスレティックトレーナー連絡協議会、その他関係機関との連携を図りつつ、ネットワークを更に充実させます。
- (ウ) 女性アスリートを支援するため、女性特有の課題解決に向けた研修会や専門家（産婦人科医、栄養士等）による個別相談等を更に充実させます。

エ アンチ・ドーピング活動の推進

- (ア) 国民体育大会等へ出場する選手や監督を対象に「アンチ・ドーピング研修会」を開催するなど、アンチ・ドーピングに関する情報の発信を積極的に行います。
- (イ) 競技団体に配置されたアンチ・ドーピングに関する知識を有したスポーツファーマシストと選手・監督との連携を強化し、いつでも相談できる体制を確立します。
- (ウ) 学校現場においてフェアプレーの精神に基づいたアンチ・ドーピングの教育を推進します。

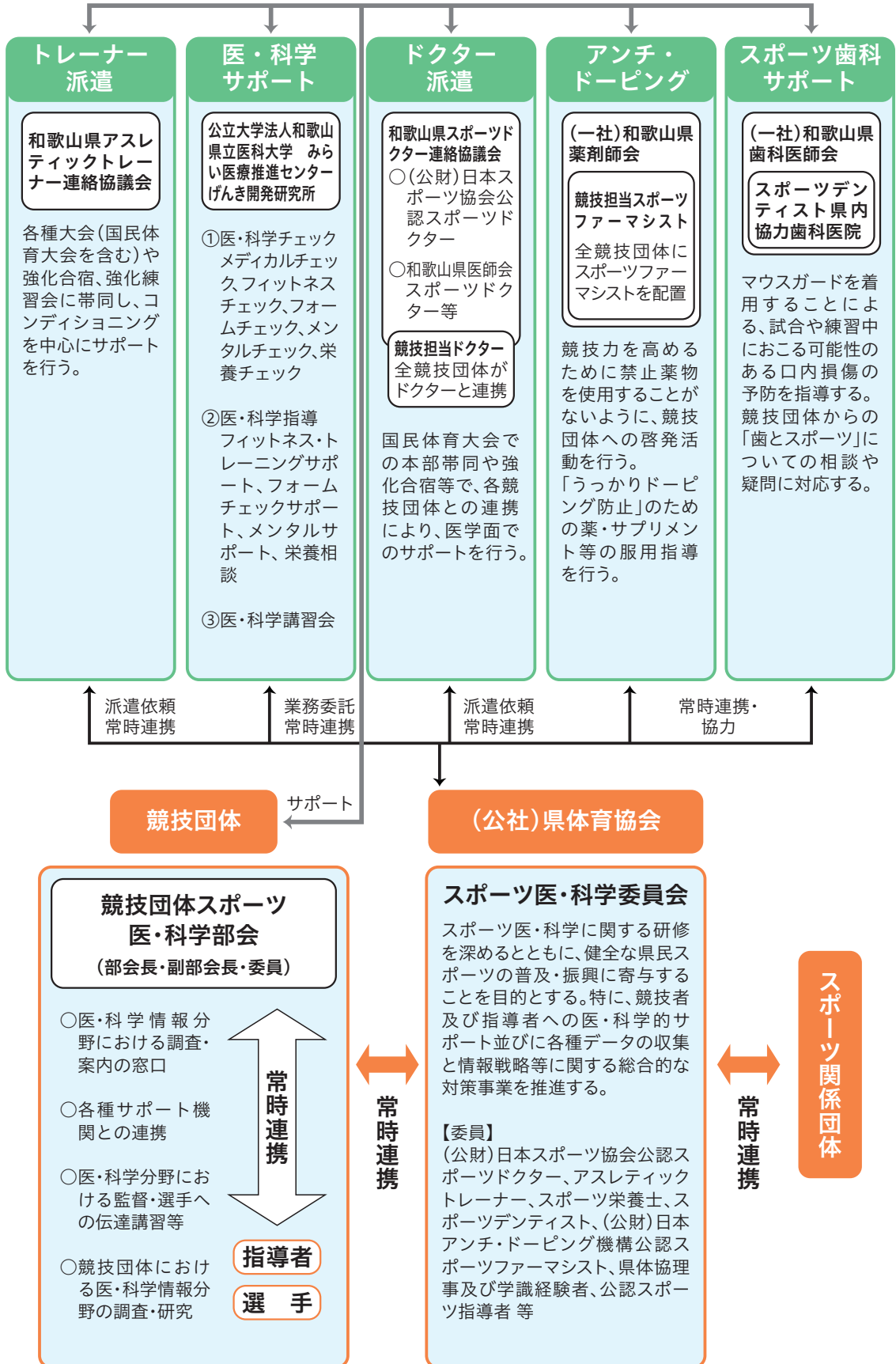
オ スポーツ界のガバナンスの強化

- (ア) スポーツ団体の組織運営の強化と透明性の向上が図られるよう、指導を徹底します。
- (イ) スポーツ団体の運営にアスリートの意見を反映する仕組みの導入を促進します。
- (ウ) スポーツ団体役員等への女性の積極的な登用を促進します。



和歌山県 スポーツ医・科学サポート 連携図

各組織の常時連携・協力

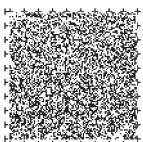


第1章 推進計画の策定に当たって

第2章 推進計画の基本方針

第3章 スポーツ推進の具体的な方策

第4章 連携・協働による施策の総合的な推進



4 全国大会・国際大会の開催及び国際競技大会等に係るキャンプの誘致による県民のスポーツに対する意識や関心の向上と県内各地域の活性化

(1) 政策目標

トップレベルのスポーツに身近に触れられる機会をより多く創出することで県民のスポーツに対する意識や関心を一層高めるとともに、スポーツによる地域の活性化につなげます。

(2) 指 標

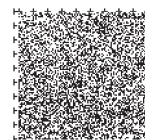
国内外ナショナルチーム等のキャンプ年間誘致数
【2016(平成28)年】5件 【2022(令和4)年】8件 → 【2027(令和9)年】15件

(3) 現状と課題（令和4年度）

- 紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の開催を契機に、県民の競技スポーツに対する関心や期待が高まりました。
- 県民がトップレベルのアスリートやそのプレーに直接触れる機会は増加しており、一定の成果は得ているものの、幅広い競技種目のキャンプ誘致になっていません。
- ナショナルトレーニングセンターである和歌山セーリングセンターでは、全国高等学校総合体育大会のヨット競技大会が2015(平成27)年度から2034(令和16)年度まで固定開催されることが決定しています。
また、2016(平成28)年9月に、J/24クラス世界選手権大会が開催されました。
- 2016(平成28)年3月に田辺スポーツパーク陸上競技場がナショナルトレーニングセンター(パラリンピック陸上競技)に指定され、トップアスリートがトレーニングを実施しています。



全国高等学校総合体育大会ヨット競技大会



第3章 スポーツ推進の具体的な方策

- 2002(平成14)年にデンマークサッカーチームが、2007(平成19)年、2008(平成20)年にフランス陸上チームが、そして、2015(平成27)年にオーストラリア陸上チームが、本県で国際大会の事前キャンプを実施しました。



オーストラリア陸上チーム歓迎セレモニー

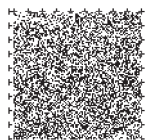
- 2016(平成28)年には、競泳日本代表チームとパラリンピック陸上日本代表候補チームが、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会に向けた事前キャンプを本県で実施しました。

また、女子ラグビー日本代表15人制チームと7人制チームの他、ラグビートップリーグチーム等も本県でキャンプを実施しています。



パラリンピック陸上日本代表候補チーム トレーニングの様子

- 2018(平成30)年には、スイミングカナダ他4件のキャンプが実施されました。
2019(令和元)年には、ラグビーワールドカップ2019ナミビア共和国代表チーム他4件のキャンプが実施されました。
2020(令和2)年には、女子ラグビー15人制日本代表のキャンプが実施されました。
2021(令和3)年には、U-24オリンピック男子サッカードイツ代表及びU-24オリンピック男子サッカーホンジュラス代表他1件のキャンプが実施されました。
2022(令和4)年には、セーリング日本代表49erクラス強化合宿他7件のキャンプが実施されました。



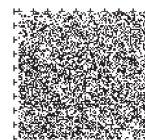


U-24オリンピック男子サッカードイツ代表チーム



U-24オリンピック男子サッカーホンジュラス代表チーム

- 2023(令和5)年には世界水泳選手権、2024(令和6)年には世界パラ陸上競技選手権大会、2025(令和7)年には世界陸上及びデフリンピック、2026(令和8)年にはアジア競技大会及びアジアパラ競技大会が開催されるなど、今後、日本及び近隣国で大規模な国際競技大会が開催されます。
- スポーツへの意識や関心を高め、スポーツ参画人口の拡大と競技力向上を図るため、県民がトップレベルのスポーツに身近に触れられる機会をより多く創出し、キャンプ実施後も、その地域においてスポーツによる地域活性化が図られる様々な取組が必要です。



(4) 具体的な方策

ア トップレベルの競技スポーツを身近で観戦したり応援したりする機会の充実

(ア) 本県でプロスポーツの公式戦等が継続して開催されるよう、積極的に支援するとともに、大会やキャンプの開催を支えるスポーツボランティアの人材バンクの立ち上げを進め、「みる」「ささえる」スポーツ活動の場の創出に取り組みます。

(イ) 国内外のナショナルチーム等のキャンプ誘致に取り組み、県民との交流及び地域の活性化を図ります。キャンプを実施した地域における当該競技の聖地化を目指し、全国大会等の誘致によるスポーツイベントの継続開催を推進します。



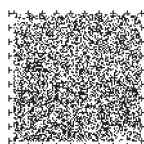
パラリンピック陸上日本代表候補チームと地元中学生との交流

(ウ) 和歌山セーリングセンターをはじめ、県内競技施設での全国大会・国際大会の開催または招致に取り組みます。



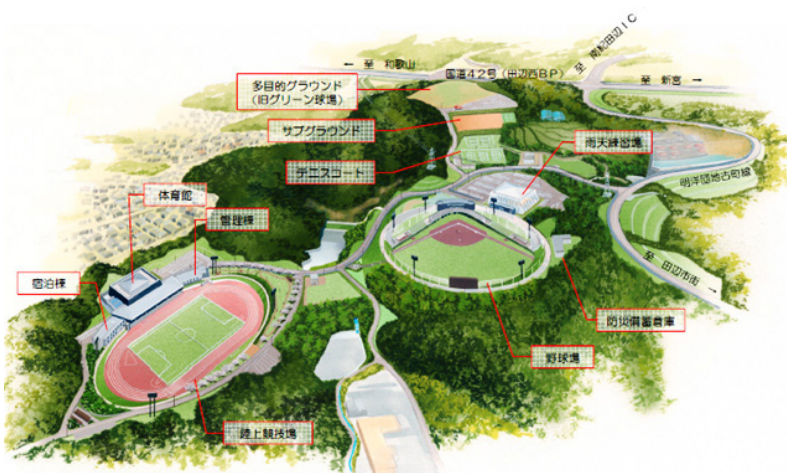
J/24 クラス世界選手権大会

(エ) 近畿府県市や関西広域連合と連携・協力して取り組む国際競技大会の共同招致活動に積極的に参画します。



① 国際競技大会等のキャンプ候補地としての効果的なアピールと更なる優位性の向上

(ア) 紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会のために整備された優れた競技施設や関西国際空港・南紀白浜空港への好アクセス等、キャンプ地としての優位性を国内外に向けて積極的にアピールします。



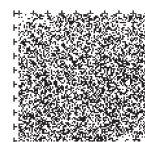
田辺スポーツパーク

(イ) 本県でキャンプを実施するナショナルチーム等に対し県、市町村及び民間団体と連携・協力し、そのチームのキャンプ目的やニーズに合致したトレーニング環境を提供します。



ラグビー女子日本代表チームキャンプ：上富田町

(ウ) 共生社会の実現に向け、スポーツの価値やオリンピック・パラリンピックの意義を学ぶ「オリンピック・パラリンピック教育」をJOCと連携し、推進します。



第4章 連携・協働による施策の総合的な推進

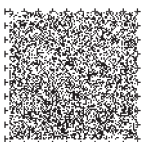
スポーツ基本法において、スポーツは世界共通の人類の文化であるとされており、スポーツの推進には、国、独立行政法人、地方公共団体、学校、スポーツ関係団体及び民間事業者その他の多様な主体による連携・協働が必要不可欠であるとされています。

国においては、関係府省及び関係団体で構成される「体力づくり国民会議」において、スポーツを通じた健康増進、体力増強に取り組んできたところですが、この心身の健康の保持増進に関する業務を含め、スポーツに関する基本的な施策の企画及び立案並びに推進に関する業務、スポーツに関する関係行政機関の事務の調整に関する業務を主たる任務とするスポーツ庁が2015(平成27)年10月に発足しました。そしてそのスポーツ庁の舵取りのもと、文部科学省の旧来からのスポーツ施策に加え、厚生労働省、経済産業省、国土交通省その他関係行政機関の多様な施策が総合的に推進されています。

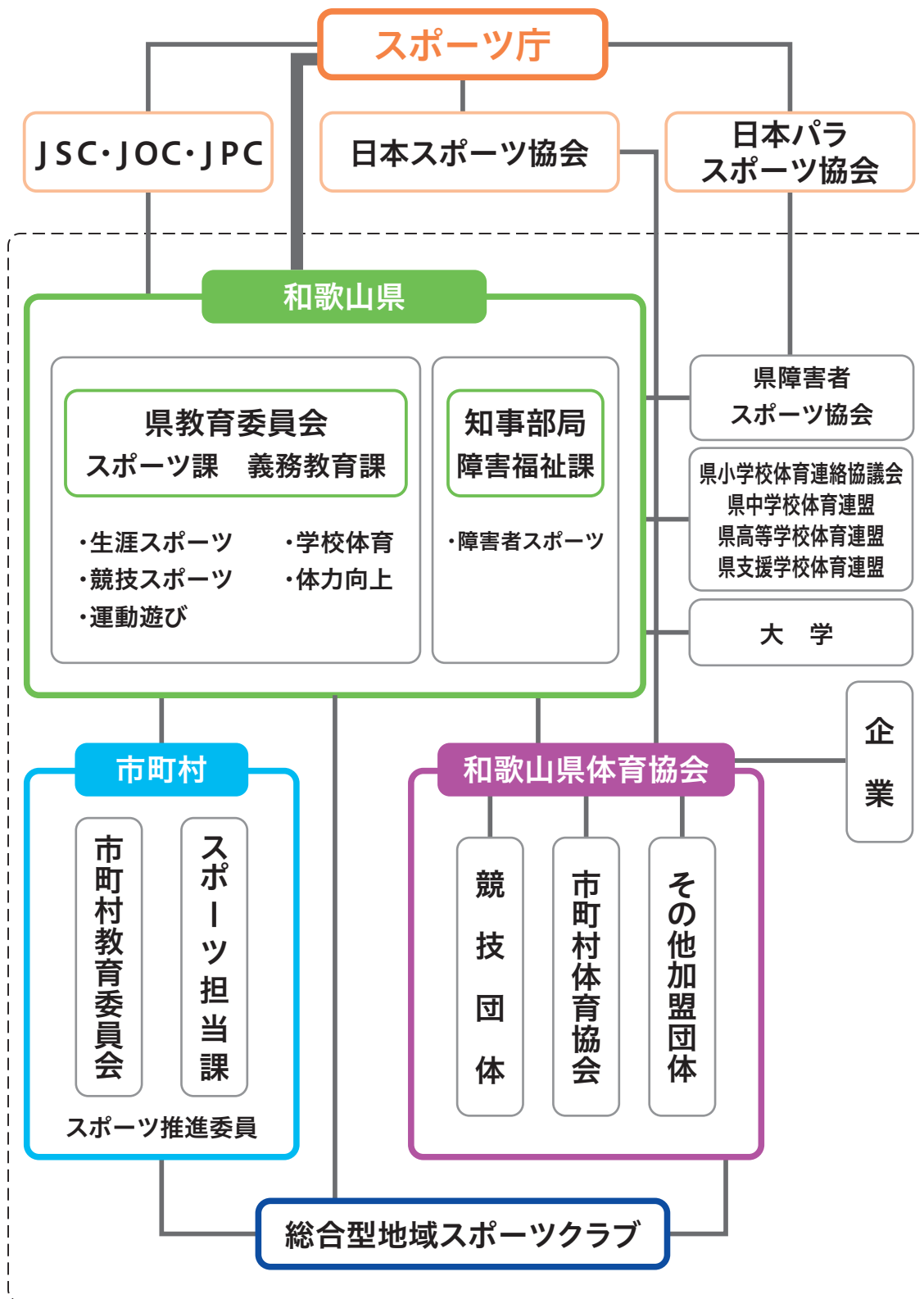
一方、本県においても、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会、全国健康福祉祭和歌山大会(ねんりんピック紀の国わかやま2019)の開催を通じて、市町村、公益社団法人和歌山県体育協会、和歌山県障害者スポーツ協会、それら加盟団体及び民間企業等との間にスポーツ推進に関する連携・協働の基盤が培われました。

今後、スポーツに関する県の施策を当計画期間中に開催される、ワールドマスターズゲームズ2027関西の成功につなげていけるよう、一貫性の高いものにしていく必要があります。

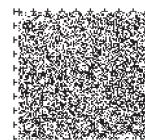
そのために、和歌山県長期総合計画や、和歌山県教育振興基本計画の基本方針との整合性に配慮しつつ、より一層、横断的で機能的に県スポーツ行政を推進し、豊かなスポーツライフの創造をめざしていきます。



和歌山県スポーツ推進体制



- J S C 【Japan Sport Council】…独立行政法人日本スポーツ振興センター
- J O C 【Japanese Olympic Committee】…公益財団法人日本オリンピック委員会
- J P C 【Japanese Paralympic Committee】…日本パラリンピック委員会



<用語集>

1 学校と地域における子供のスポーツ環境の充実

■全国体力・運動能力、運動習慣等調査 7頁

全国の小学校5年生、中学校2年生全員を対象として平成20年度から実施されている体力調査。実技に関する調査、質問紙調査から成る。実技に関する調査については、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン(中学生は持久走か20mシャトルランのいずれか選択)、50m走、立ち幅とび、ソフトボール(中学生はハンドボール)投げの8種目を測定。質問紙調査では、児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を調査。(スポーツ庁、https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/kodomo/zencyo/1368222.htm)

■スクリーンタイム【screen time】 7頁

平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間。(スポーツ庁「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果より https://www.mext.go.jp/sports/content/20221215-spt_sseisaku02-000026462_1.pdf)

■体育分野の全ての領域 8頁

体づくり運動、器械運動、陸上競技、水泳、球技、武道、ダンス、体育理論の8領域。(文部科学省、学習指導要領、中学校保健体育科(体育分野)の領域及び内容の取扱い、https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/hotai.htm)

■幼児期運動指針 9頁

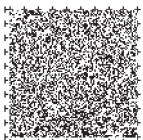
文部科学省の「幼児期運動指針策定委員会」により策定。運動習慣の基盤づくりを通して、幼児(3歳から6歳の未就学児)期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力を培うとともに、様々な活動への意欲や社会性、創造性などを育むことをめざした幼児期の運動の在り方についての指針。(文部科学省、平成24年3月)

■スポーツ・レクリエーション活動 9頁

心身の健全な発達、生きがいのある豊かな生活の実現等のためにスポーツとして行われるレクリエーション活動。(スポーツ基本法第24条)

■総合型地域スポーツクラブ 6・9・15・28頁

人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子供から高齢者まで(多世代)、様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。(スポーツ庁、https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop05/list/1371972.htm)



2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

■スポーツ推進委員 11・15・28頁

市町村教育委員会の委嘱を受け、市町村におけるスポーツの推進のため、事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツの実技の指導、その他スポーツに関する指導及び助言を行う者。(スポーツ基本法第32条第1項及び第2項)

■みんなで実践！健康づくり運動ポイント事業 13頁

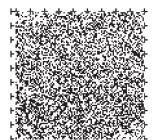
生涯にわたり健康を維持するため、楽しく運動習慣の定着を図る仕組みを構築し、地域コミュニティに密着した健康づくりを推進する事業で、自治会活動や個人活動にポイントを付与し、地域ぐるみで楽しく競いながら運動習慣の定着をめざしている。

■ワールドマスターズゲームズ2027関西 14・27頁

国際マスターズゲームズ協会 (IMGA: International Masters Games Association) が4年ごとに主宰する、原則30歳以上のスポーツ愛好者であれば誰もが参加できる生涯スポーツの国際総合競技大会。2027(令和9)年5月14日から5月30日まで、日本(関西)で開催。(https://www.wmg2021.jp)

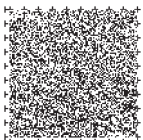
■きのくに広域スポーツセンター 15頁

個々の総合型地域スポーツクラブだけでは解決できない課題に対し、きめ細かく支援する組織で、総合型地域スポーツクラブを育成・支援するための機能をもったスポーツセンター。



3 世界の舞台で活躍できる競技者の発掘・育成・強化

- **インテグリティ[integrity]** 17頁
高潔さ・品位・完全な状態を意味する言葉です。スポーツにおける「インテグリティ」とは、「スポーツが様々な脅威により欠けるところなく、価値ある高潔な状態」を指します。(日本スポーツ振興センターHPより <https://www.jpnsport.go.jp/corp/gyoumu/tabid/516/Default.aspx>)
- **ゴールデンキッズ発掘プロジェクト** 18頁
県内の優れた素質を有する子供たちを早期に見出し、発達段階に応じた育成プログラムを実施することにより、将来オリンピックをはじめとする国際舞台で活躍できる競技者を育成する事業。
- **チーム和歌山コーチ塾** 19頁
各競技におけるトップレベル指導者の養成及び資質向上を目的とした講習会。
- **体育指導員** 19頁
スポーツに関する専門的な知識を持ち国際競技大会に日本代表として出場した人又は全国規模の大会で特に優秀な成績を収めたこと等を条件として、本県のスポーツ振興を図るため、県民の幅広いスポーツ・ニーズに応じた専門的・技術的なスポーツ指導を行うことを職務として和歌山県に採用された者。(「募集要項」より)
- **公益社団法人和歌山県体育協会スポーツ医・科学委員会** 19・21頁
スポーツ医・科学に関する研修を深めるとともに、健全な県民スポーツの普及・振興に寄与することを目的として、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツドクター、薬剤師、アスレティックトレーナー、スポーツ栄養士、公益社団法人和歌山県体育協会理事及び学識経験者並びに公認スポーツ指導者等で組織する委員会。(「公益社団法人和歌山県体育協会和歌山県スポーツ医・科学委員会規則」より)
- **スポーツドクター** 20・21頁
スポーツマンの健康管理、スポーツ障害、スポーツ外傷の診断、治療、予防、研究等に当たる者。(「公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度」より)



■アスレティックトレーナー 20・21頁

スポーツドクター及びコーチとの緊密な協力のもとに、スポーツ選手の健康管理、傷害予防、スポーツ外傷・障害の救急処置、アスレティックリハビリテーション及び体カトレーニング、コンディショニング等にあたる者。(「公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度」より)

■スポーツファーマシスト 20・21頁

最新のドーピング防止規則に関する正確な情報・知識を持ち、競技者を含めたスポーツ愛好家などに対し、薬の正しい使い方の指導、薬に関する健康教育などの普及・啓発を行い、スポーツにおけるドーピングを防止することを主な活動とする。薬剤師の資格を有し、所定の課程を修めた者が、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構より認定される資格制度。

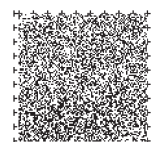
■ガバナンス[governance] 6・20頁

統治・統制すること。(「広辞苑」より)

4 連携・協働による施策の総合的な推進

■第32回全国健康福祉祭和歌山大会(ねんりんピック紀の国わかやま2019) 27頁

全国健康福祉祭(ねんりんピック)は、60歳以上の方々を中心として、あらゆる世代の人たちが楽しみ、交流を深めることができるスポーツと文化、健康と福祉の総合的な祭典。1988(昭和63)年の第1回ひょうご大会以来、毎年開催されており、2019(令和元)年11月9日から12日の4日間、「あふれる情熱はじける笑顔」を大会のテーマに和歌山大会を開催。



和歌山県スポーツ推進計画策定までの経緯

- 平成26年7月31日
 - ・和歌山県教育委員会から和歌山県スポーツ推進審議会に「和歌山県スポーツ推進計画策定に向けた基本的な考え方について」**諮問**
 - ・平成26年度第1回和歌山県スポーツ推進審議会
「和歌山県スポーツ推進計画策定の在り方について」答申(案)の骨子検討

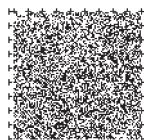
- 平成27年3月23日
 - ・平成26年度第2回和歌山県スポーツ推進審議会
「和歌山県スポーツ推進計画策定の在り方について」答申(案)の協議

- 平成27年7月23日
 - ・平成27年度第1回和歌山県スポーツ推進審議会
「和歌山県スポーツ推進計画策定の在り方について」答申最終原案の協議

- 平成28年3月22日
 - ・和歌山県スポーツ推進審議会から和歌山県教育委員会に「和歌山県スポーツ推進計画策定の在り方について」**答申**

- 平成30年3月9日～3月30日
 - ・「和歌山県スポーツ推進計画(案)」のパブリックコメント実施

- 平成30年4月18日
 - ・和歌山県教育委員会4月定例会に「和歌山県スポーツ推進計画(案)」を付議、承認
 - ・和歌山県スポーツ推進計画の策定



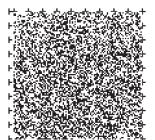
ス 第 3 4 5 号
平成26年7月31日

和歌山県スポーツ推進審議会
会 長 大 桑 埴 嗣 様

和歌山県教育委員会
委員長 山本 哲

和歌山県スポーツ推進計画策定に向けた基本的な考え方について（諮問）

このことについて、スポーツ基本法第10条並びに第31条の規定に基づき、別紙理由を添えて諮問します。



(諮問理由)

スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものとするとともに、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や心身の健全な発達に必要な不可欠なものである。

生涯にわたってスポーツに親しむことは、健康の維持・増進だけでなく、一人ひとりの人生を意欲的で活力のあるものにする上で極めて大切である。

また、競技スポーツにおけるトップアスリートの極限に挑戦する姿は、スポーツへの関心を高め、人々に夢と感動を与えるなど、活力ある健全な社会の形成に大いに貢献するものである。

このような意義を有するスポーツの振興は、地方公共団体の重要な責務の一つになっている。

本県においては、これまで審議会から昭和50年3月に「国体終了後におけるスポーツ振興方策について」、平成6年2月に「21世紀を展望した本県のスポーツ振興方策について」、平成19年6月に「平成27年開催予定の第70回国民体育大会を見据えた本県のスポーツ振興方策について」答申を得ている。

これらの答申の趣旨に沿ってスポーツ振興に取り組み、様々な施策を展開し、その結果、「スポーツ県和歌山」として、全国的に高い評価を受けてきたところである。

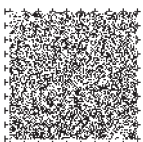
しかしながら、その後の急激な社会変化や人々のライフスタイルの多様化等により、スポーツに対する県民の意識が変容するとともに、子ども達の運動・スポーツ離れや体力・運動能力の低下傾向が危惧されている。

また、平成27年に本県で開催が予定されている第70回国民体育大会後においても、本県の競技者が優秀な成績を収め、さらにはオリンピック競技大会などの国際大会でも優秀な成績を収めるためには、継続的な競技力の向上施策が必要である。

このような状況を踏まえ、生涯スポーツ、競技スポーツ及び学校体育の振興並びに子どもの体力・運動能力の向上の観点から、本県にふさわしい特色のある「県スポーツ推進計画」を策定するため、ここに「和歌山県スポーツ推進審議会」の答申を求めるものである。

(検討すべき事項)

- 1 生涯スポーツの振興方策
- 2 スポーツ環境の整備方策
- 3 競技スポーツの振興方策
- 4 全国規模大会等の招致及び国際競技大会等に係る事前キャンプ等の招致と地域の活性化方策



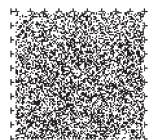
平成28年3月22日

和歌山県教育委員会
教育長 宮下和己様

和歌山県スポーツ推進審議会
会長 山下郁夫

和歌山県スポーツ推進計画策定の在り方について（答申）

平成26年7月31日付け第345号で諮問された標記のことについて、和歌山県スポーツ推進審議会において審議した結果、別添のとおり答申します。



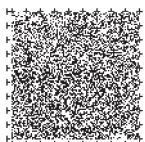
和歌山県スポーツ推進審議会委員名簿

(令和4年3月～)※令和5年6月現在

押 村 浩	学識経験者(株式会社紀陽銀行人事部長)
川 畑 豪 則	県小学校体育連絡協議会会長(和歌山市立山口小学校校長)
阪 本 憲 二	障害者スポーツ代表(県障害者スポーツ協会理事)
坂 本 政 行	学識経験者(NPO法人和歌山マスターズ陸上競技連盟副理事長)
島 本 久 仁	スポーツ選手・指導者代表(県テニス協会副理事長)
筋 師 光 博	県スポーツ推進委員協議会会長
角 谷 正 文	学識経験者(県体育協会スポーツ医・科学委員会委員長)
田 村 光 穂	県スポーツ振興財団常務理事
中 西 朋 子	スポーツ選手・指導者代表(有田市教育委員会事務局教育総務課)
西 上 嘉 人	県高等学校体育連盟会長(県立和歌山北高等学校校長)
橋 爪 静 夫	学識経験者(南京師範大学体育科学学院客員教授)
坂 東 あつみ	女性スポーツ代表(県女性スポーツ連盟理事長)
彦 次 佳	学識経験者(関西大学人間健康学部人間健康研究科教授)
三 井 利 仁	学識経験者(日本福祉大学大学院スポーツ科学研究科教授)
南 由 佳	学識経験者(スプラウトスポーツクラブ和歌山理事)
本 松 大 策	県PTA連合会副会長
森 下 順 子	学識経験者(学校法人和歌山信愛大学教育学部准教授)
山 下 郁 夫	県体育協会副会長
吉 川 豊	県中学校体育連盟会長(和歌山市加太中学校校長)

(任期が令和2年3月1日から令和4年2月28日までの委員)

太 田 謙 二	県小学校体育連絡協議会会長(和歌山市立中之島小学校校長)
神 谷 禎 之	県中学校体育連盟会長(和歌山市立西和中学校校長)
鴻 池 清 司	学識経験者(公益社団法人日本マスターズ陸上競技連合会長)
雑 賀 敏 浩	県高等学校体育連盟会長(県立和歌山北高等学校校長)
阪 本 憲 二	障害者スポーツ代表(県障害者スポーツ協会理事)
島 本 久 仁	スポーツ選手・指導者代表(県テニス協会副理事長)
筋 師 光 博	県スポーツ推進委員協議会会長
角 谷 正 文	学識経験者(県体育協会スポーツ医・科学委員会委員長)
田 村 光 穂	県スポーツ振興財団常務理事
中 西 朋 子	スポーツ選手・指導者代表(有田市教育委員会事務局教育総務課)
野 田 修 司	学識経験者(株式会社紀陽銀行執行役員)
橋 爪 静 夫	学識経験者(南京師範大学体育科学学院客員教授)
坂 東 あつみ	女性スポーツ代表(県女性スポーツ連盟理事長)
彦 次 佳	学識経験者(和歌山大学教育学部保健体育准教授)
三 井 利 仁	学識経験者(日本福祉大学大学院スポーツ科学研究科教授)
南 由 佳	学識経験者(スプラウトスポーツクラブ和歌山理事)
本 松 大 策	県PTA連合会副会長
森 下 順 子	学識経験者(学校法人和歌山信愛大学教育学部准教授)
山 下 郁 夫	県体育協会副会長



和歌山県スポーツ推進審議会委員名簿

(任期が平成30年3月1日から令和2年2月29日までの委員)

石 本 倫 章	県小学校体育連絡協議会会長(和歌山市立松江小学校長)
江 川 柄莉菜	スポーツ選手・指導者代表(県立たちばな支援学校教諭)
喜 多 英 夫	県スポーツ振興財団常務理事
鴻 池 清 司	公益社団法人日本マスターズ陸上競技連合会長
小 畑 晶 子	県PTA連合会副会長
阪 口 雅 則	県高等学校体育連盟会長(県立和歌山北高等学校長)
阪 本 憲 二	障害者スポーツ代表(県障害者スポーツ協会理事)
島 本 久 仁	スポーツ選手・指導者代表(県テニス協会副理事長)
筋 師 光 博	県スポーツ推進委員協議会会長
角 谷 正 文	県体育協会スポーツ医・科学委員会委員長
田 上 卓 慶	県中学校体育連盟会長(和歌山市立楠見中学校長)
橋 爪 静 夫	南京師範大学体育科学学院客員教授
坂 東 あつみ	県女性スポーツ連盟理事長
彦 次 佳	和歌山大学教育学部准教授
三 井 利 仁	県立医科大学みらい医療推進センターげんき開発研究所副所長
南 由 佳	NPO法人ゆうゆうスポーツクラブ海南クラブマネジャー
室 みどり	学校法人和歌山信愛女子短期大学名誉教授
山 下 郁 夫	県体育協会副会長

(任期が平成26年7月31日の諮問日から平成30年2月28日までの委員)

岩 井 美 紀	スポーツ選手・指導者代表
上 野 幸 浩	県高等学校体育連盟会長
内 田 敏 夫	県小学校体育連絡協議会会長
大 桑 埴 嗣	県体育協会副会長
堅 田 哲 也	県中学校体育連盟会長
菅 井 繁 實	NPO法人会津スポーツクラブ理事長
高 橋 恭 代	スポーツ選手・指導者代表
瀧 川 嘉 彦	県PTA連合会会長
谷 口 久 雄	県スポーツ振興財団専務理事
田 村 美津枝	障害者スポーツ代表
宮 本 和 幸	県高等学校体育連盟会長
宮 本 昌 昭	県中学校体育連盟会長
山 崎 和 典	県PTA連合会会長
湯 川 泰 成	県小学校体育連絡協議会会長

